

学校だより

5月号

平成27年5月1日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

青葉若葉の季節 ～伝統について考える～

校長 井出 了一



ハナミズキの白やピンクの花が一斉に咲き、新緑が目眩しい季節となりました。毎朝私は、正門の前で子どもたちの登校を迎えていますが、この1か月で周囲の景色がガラリと変わりました。花の咲き終えたサクラや築山のケヤキの枝には、蛍光のような黄緑色の若葉が芽生え、サツキやツツジの花が、校庭を彩っています。透明感のある若葉がいつの間にか生い茂り、春の風にさわさわと揺れて清々しさを放っています。

この時期に、新緑がひととき美しいのは、イチョウやケヤキなど、冬の間は葉を落としていた落葉樹です。常緑樹のマツやヒマラヤスギなどの葉は古い葉と順々に替わっていきませんが、落葉樹の新葉は一斉に伸びてくるのでこんなに新鮮なのでしょう。

若葉は、明るく黄色味がかかった緑色をしています。私は理科が専門ですので、その理由を知りたくなり調べてみました。『これは葉の中の葉緑体に含まれる葉緑素(緑色の色素)がまだ少なく、元々ある黄色の色素が勝っているからです。日に日に太陽に当たることによって、光合成をするための葉緑素が増え、夏に向けて緑色が濃くなっていきます。ちなみに秋の紅葉(黄葉)は、この葉緑体が壊れることで起きる現象です。』とのことでした。

さて、着任以来「本太小学校は伝統ある学校」という表現を多々用いてきました。地域の方々からも、よき伝統や歴史を学びました。そんな折にあるテレビ番組で、竹細工職人である田辺小竹氏の「伝統とは挑戦なり」という言葉に出会いました。小竹氏は一子相伝の家系に生まれて厳しい修行を続けながらも、芸大で基礎を学び、竹農家で竹の生態を学び、「常に新しい表現にチャレンジしていくことこそ伝統であり、受け継ぐだけでは伝承に留まってしまう」と話していました。

本太小は106年の歴史に裏打ちされた学校ですが、その伝統を受け継ぎつつ、新しい時代の要請に応え、発展させていくのが私たちの使命と考えます。「伝統とは挑戦」を今年のキーワードとして「一歩前へ」踏み出す勇気を持ち、児童も教職員も、よりよい本太小学校を築くためのチャレンジを続けたいと思います。

子どもたちが少し慣れてきたこの時期こそ、交通事故や不審者対応が心配な時期でもあります。引き続き、地域や保護者の皆様の見守りをよろしくお願いいたします。

